

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



134号

2011年9月7日

ときわ台の景観を守る会

ときわ台まちづくり委員会

代表 鈴木博之 近藤洋子

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 藤和マンション行政訴訟

第2回口頭弁論が8月23日(火)東京高裁の809号法廷で行われ、原告のひとりNさんが意見陳述をしました。

原告側からは踏み切りの交通調査の結果を提出、こんなに頻繁に交通渋滞の起こる踏み切り間際で、狭隘な道路を部分的に拡幅するだけで、高層マンションの建設を許可する行政の姿勢を批判しました。

司法改革が叫ばれているのに、裁判官の資質は全く変わっていないようです。特にこういう行政訴訟では、行政を裁定できるのは司法だけなので、今までのような行政追認の姿勢であってはならないはず。

この日で弁論は終結し、判決には時間が欲しいということで、11月24日(木)15時15分判決となりました。

3ヶ月もあるので、葉書による公正な裁判を求める要請運動を考えています。

○ しゃれ街協議会への住民参加

東京都の「しゃれた街並みづくり推進条例」で景観重点地区に選ばれた常盤台1・2丁目地区では、すべての建築行為について「ときわ台しゃれ街協議会」と協議することが義務付けられています。

先ごろ、隣家との関連で問題があり、協議会があったことも隣家では知らなかったことから、試験的に協議会を隣家が傍聴できるようにするという事です。練馬区向山のように、隣家の同意書が必要になるまでには至らないでしょうが、敷地分割が進むなか、隣に変なもの建たないよう、誰しも願うところでしょう。ガイドラインは住民自身が作り上げたものです。関心を持ち続けてもらうために、傍聴だけでも住民参加は意義があるでしょう。

○ 暫定駐輪場撤去へ

常盤台小学校と中央図書館の間の並木道に、区が暫定と言いつつ、30年近くも放っておいたあの駐輪場が撤去の方針となりました。

この一年間、近藤代表を始め景観を守る会は、何回も自転車管轄の課長・係長と面談し善処を要請してきました。

具体的には代替地借り上げの形で計画は進んでいますが、図書館改築との関連で、私たちとしては今の案からもう一歩踏み込んでほしいところです。収容台数の点などもまだ煮詰まってはいません。

より良い解決に向けての提案もし、住民の要望を伝えていきたいと思います。

○ 公園トイレでの事件

7月28日(木)の早朝、常盤台公園のトイレで自殺がありました。

警察署に電話で確かめたのですが、月日と事例があったこと以上は個人情報保護ということで、尋ねても教えてくれません。しかし、身近な町の中の出来事が、住民に何も知らされないというのは納得できません。何でも隠蔽してしまう傾向が福島原発問題などを生んできたのではありませんか。

以下は断片的に拾った情報です。朝のラジオ体操に参加の人が発見者。中から鍵がかかり、水素爆発に注意と言う意味の張り紙がしてあったそうです。数日前からベンチにいた4、50代のホームレスの男性らしい。吸殻を集めておいたり、豪雨の中、トイレや図書館に避難せず、傘をさしたなりじっと座っていた姿が心に残る、とTさんの言でした。

「土地の格付け」本で儲けるのは？

「東京土地のグランプリ」などで住宅地のランク付けを発行していた出版社が、二〇〇八年出版のものを焼き直した本が結構売れているとか。東日本大地震で液状化が起きた土地や、ゆれの激しかった高層マンションの住人たちが、安全な場所を探しているのかもしれない。

常盤台については、『板橋区の常盤台1丁目(二七位)は、駅前から道路が放射状に延び、豪邸が建ち並ぶ。板橋の田園調布』と呼ばれるのも頷ける。ここは東武鉄道が社を挙げて、「健康住宅地」として戦前に開発した。落ち着いた家並みは、昭和初期から続くが、近年、高層マンションの建設をめぐり住民訴訟が起きていることが、少々ランクを下げる要因になった。』とあります。

住民訴訟が起きて土地のランクが下がったというなら、芦屋でも田園調布でも国立でもランクが下がったことになるでしょう。

この本の出版意図が、良好な住宅地の保全などというよりは、新築マンションの広告・宣伝に比重を置いているということがよくわかります。マンション反対運動などされては困るので、予め抑えておきたいのです。要するに萎縮効果を狙っているわけです。

タカラレーベンも訴訟に対して逆に損害賠償を要求してきましたが、そんな脅しに私たちは乗らなかつたし、裁判所も相手にしませんでした。環境を乱す建築物に対しては訴訟も辞さない覚悟の住民がいる、という土地は、むしろ価値が上がるのではないのでしょうか。

原発不信から

各電力会社や、あろうことか原子力保安院のやらせが発覚しています。うすうす感じていたけれど、やっぱり！と思うことが多いのです。板橋区だって東京都だって似たようなことはありません。

・オリンピックの招致など、東京都民の誰が賛成したのでしょうか。都民の意見を聞く必要はないと都知事はうそぶいています。この前の招致騒ぎで使った約一五〇億円の使途も不明のままなのに、都民が納得するはずがありません。前回の騒ぎの裏では、何とか盛り上げようと色々なやらせがあったようです。

・板橋区民と区長の懇談会なるものもまた開催されるようです。各町会に質問者を割り当て、予め質問や意見の内容をチェックするなど、自由な区民の意見陳述の場とは思えません。実際参加した人の感想も、陳腐な茶番劇を見るようだったというものでした。

ロータリーコンサート

九月四日(日)午後、北口駅前でロータリーコンサートが行われました。

今回は、上板橋第一中学校吹奏楽部・上板橋第一小学校ミュージカル ピース・筑紫洲蓬会の三味線合奏・志摩光信さんのギター演奏・相沢さんのキーボード演奏・ピリアロハのフラダンス、という盛りだくさんな内容でした。

次回は十月九日(日)で、松原広地さん主宰の新東京アカデミー合奏団・淑徳短期大学チアガールの皆さんの予定。

常盤台公園のはなづくり

夏バテで殆ど活動はお休み、と言う中、数人の人たちはボランティア活動を続けていて、頭が下がる思いです。

今年は何度も夕立(ほとんど亜熱帯地方のスコールみたいですが)が降ってくれたおかげで、水遣りの手間が大分省けたとはいえ、この酷暑を生き延びるのは植物にとつても大変です。

Tさんが信じられないくらい早朝に水撒きをしてくれるので、公園の草花は夏中花を絶やさず咲かせてくれました。種から蒔いたヒマワリも咲きました。矮性種でビッグスマイルという品種です。名前のように笑顔をふりまいています。

十一月にはまた苗を植え替えるので、区からの注文書に種類とポット数を書いて送ります。パンジー四〇・ビオラ四〇・ノースポール五〇・・・というように。ただし、チューリップについてはいつも別に、こちらで色・品種を考えて大量の球根を買っています。

Tさんは更にこだわりの人なので、原種に近い珍しいチューリップを、個人的に買ってきて植えています。

図書館前の植え枿には、かくしてこだわりとこだわりがぶつかり合い、公園にしては贅沢な、春の花壇が出現するので

定例会九月十七日(土) 七時

「ギャラリー服部」にて

